

名古屋大学

【N045 名古屋大学】

| | |
|-------------------|---|
| | 名古屋大学 農学分野 |
| 学部等の教育研究 組織の名称 | 農学部（第1年次:170） 大学院生命農学研究科（M:139 D:45） |
| 沿 革 | 昭和14（1939）年 名古屋帝国大学創設 昭和26（1951）年 新制名古屋大学農学部設置 昭和30（1955）年 大学院農学研究科設置 平成9（1997）年 大学院生命農学研究科設置（改組） |
| 設置目的等 | <p>昭和14年、名古屋大学農学部の母体である名古屋帝国大学は、愛知県、名古屋市及び地元の産業界等の強い要請から、理科系の帝国大学として創設された。</p> <p>農学部は、教育研究と地域産業との直結を図り、中部地方の農林畜水産業の発展に寄与し、ひいては我が国の貧困な衣食住問題の解決と経済産業の興隆に貢献することを目的に、新制国立大学発足の2年後の昭和26年に設置された。</p> <p>昭和30年、農学分野における高度な研究と専門家の育成を目的に大学院農学研究科が設置され、平成9年、大学院重点化にともない生命農学研究科に改組した。</p> |
| 強みや特色、 社会的な役割 | <p>名古屋大学は、世界を代表するものづくり産業の集積地であるばかりでなく農業においても主要な生産地域に位置している。ライフサイエンスやバイオテクノロジーを中心とした学術と科学技術が飛躍的に発展しつつある時代を迎え、本学の農学分野は、リサーチ・ユニバーシティの一角として先導的な研究を実施し、我が国における幅広い農学の発展に貢献してきている。また、産業界、行政ならびにアカデミアでグローバルに活躍できる次世代リーダーの育成を目指し、基礎から応用までの幅広い知識と能力を涵養する教育を実践している。これらの教育・研究を通じて、社会貢献に取り組んでおり、その活動は、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <p>○ 多面的な学術研究活動と自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と創造力に富んだ「勇気ある知識人」を育てることを基本理念として、基礎科学の知識の上に立ち、「農学のフロンティア」として、「食・環境・健康」に関する次世代の科学と技術を創造する能力を有し、豊かな学識、国際的かつ複眼的な視野をあわせもつ</p> |

た先導的な研究者・技術者育成の役割を果たす。

- 学問的・人的交流を促すことを目的とした横断包括型教育体系の大学院プログラム、複数教員指導体制、創造的実験科学の重視などの特色ある教育、海外実地研修・外国人学生受入等の国際化（東南アジア諸国との密度の高い双方向性学生交流、全ての授業を英語で受講できるプログラムの実施等）などの教育改革、ならびに生物生産分野におけるアジア・アフリカ等の海外での研究展開を進めてきた実績を生かし、留学生を含む全学生を対象に、グローバルに活躍できる農学系人材を育成する学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図る。
- イネ分子育種、ケミカルバイオロジー、動物内分泌学、植物分子生物・病理学、農業昆虫学をはじめとする特色ある世界トップクラスの高い研究実績に加えて、食品化学、森林・林産化学等を含む農学領域での極めて高い国際評価実績を生かし、農学諸分野のフロンティアとして新しい学問領域を世界に先駆けて創出・発展させることを目指す。
- 国や自治体、団体の審議会などへの参画及び民間企業との連携や共同研究などを通じて、産学官連携による事業の立案・調整や試験研究の推進において中心的な役割を果たしつつ、一層の連携強化を図り国と地域の農林業の振興と、環境保全、食・健康に関わるバイオ関連産業の発展に資する。更に教育、研究、技術面において、我が国の農学に加えてアジア・アフリカ地域に即したグローバルな食糧生産技術の発展に寄与する。
- 県の試験研究機関との連携協定に基づく社会人大学院生の受け入れなどによる実績を生かし、社会人学び直しの制度と機会を充実させ、地域の農業、食品・医薬品産業の振興等に寄与する。
- 公開講演会・講座・研究交流会などを通じて地域への研究成果の還元を図り、高校生向けのサマーサイエンスキャンプ、スーパーサイエンスハイスクール高等学校支援などの実習プログラムを継続的に実施して「食・環境・健康」に関わる研究開発の次代を担う人材の育成にも注力する。